

松山大学法学部学術講演会

演題：「現代日本はヘーゲルから何を学べるか」

講師：権左 武志氏（北海道大学大学院法学研究科教授）

講演概要

「グローバル化」を錦の御旗として推し進められる様々な「改革」を前に、日本社会はほとんど思考停止の状態である。このような困難な時代を生き抜き、進むべき方向性を粘り強く探し出す上で、「近代」に対する我々の見方を決定づけ、現実の世界の変革可能性を強調したヘーゲル哲学の有用性は高まりこそすれ、減ずることはない。講師の権左武志氏は、世界的なヘーゲル研究者であり、2011年には和辻哲郎文化賞（学術部門）を受賞するなど、名実ともに日本を代表する政治学者の1人である。ヘーゲル研究の第一人者をお迎えしてヘーゲル哲学を学び、混迷の度を深める現代日本の展望を描く糧としたい。

コーディネーター

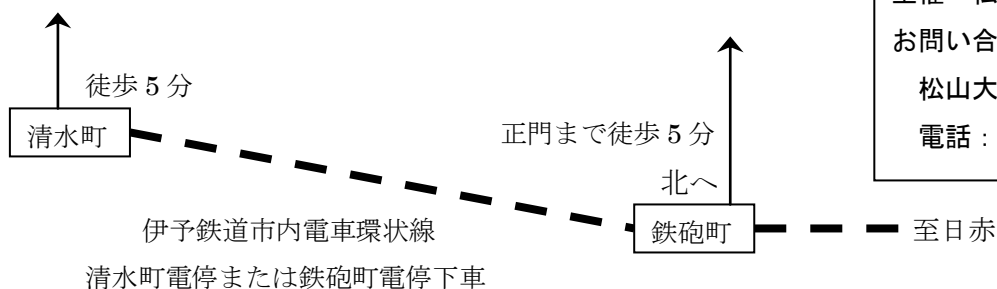
松山大学法学部教授 遠藤 泰弘

日時：2014年 **11月14日(金)**

18:00～19:30

入場無料・参加自由

場所：松山大学カルフルホール



講師：権左 武志氏の経歴

1959年生まれ

東京大学法学部卒業、北海道大学大学院法学研究科博士課程単位取得退学、法学博士

現在—北海道大学大学院法学研究科教授

著書—『ヘーゲルにおける理性・国家・歴史』（岩波書店）、『ヘーゲルとその時代』（岩波新書）他

主催 松山大学法学部

お問い合わせ先

松山大学教務課 法学部担当

電話：089-926-7137（直通）